

歴史的にみた「かつしか」の表記

「かつしか」が文字として表記されている最も古い史料は現在のところ、下総国府が都に提出した「養老五年下総国葛飾郡大嶋郷戸籍」にみえる「葛飾」です。大嶋郷戸籍と同じ8世紀に編纂された万葉集の中にも「かつしか」が表記されていますが、基本的に音に漢字をあてているだけです。また、下総国府付近から出土した奈良時代の土器には、「葛」の字が墨書されていました。

中世になると、千葉県香取神宮に所蔵されている寛元元年(1243)の古文書には「下葛西」とあり、応永33年(1426)の奥津家定寄進状に「葛西庄」、永禄5年(1562)に小田原の北条氏が本田氏に宛てた書状には「葛西」と記されています。このほかに、「葛西」と記した史料が多くあり、中世においては圧倒的に「葛」の字が用いられています。

こうしてみると、古代から中世にかけて「かつしか」の「かつ」あるいは「かさい」の「か」という漢字の表記は「葛」とする事例が多いように思えます。江戸時代になると、「かさ井」「笠井」なども使われ、実に様々な表記がなされます。中世や近世においては、当て字なども頻繁に使われており、字よりも音のほうが重要だったようです。

『かつしかの地名と歴史』（平 15、葛飾区郷土と天文の博物館）45 頁による

 葛飾区

